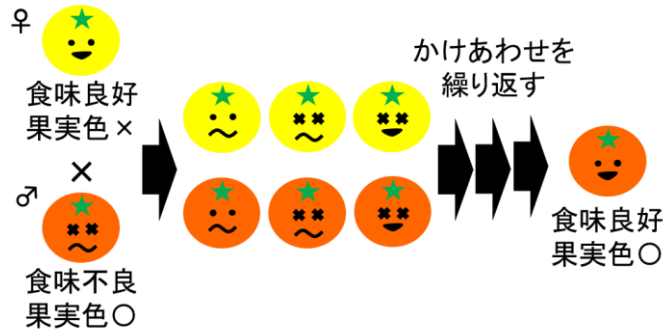


かんきつの新たな育種手法（ゲノム編集）

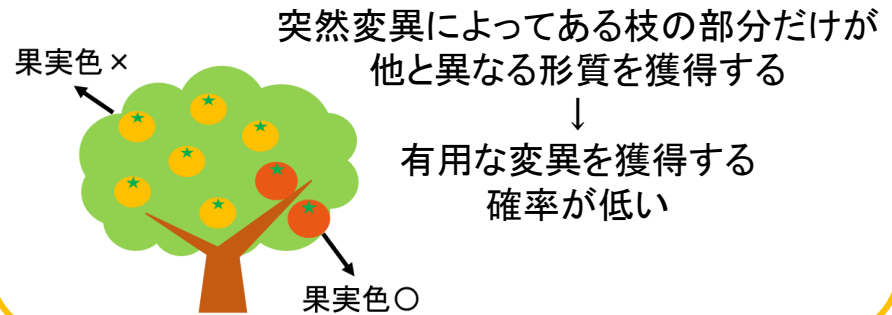
かんきつにおける既存の育種手法（交雑育種、枝変わり、遺伝子組み換え）は、育種期間が長期化するなど様々な課題を抱えている。そこで、新たな育種手法としてゲノム編集技術の導入を検討している。この技術を利用することで、目的の形質を持った新品種の開発が短期間で実施可能となる。

○交雑育種（紅まどんな、甘平など）

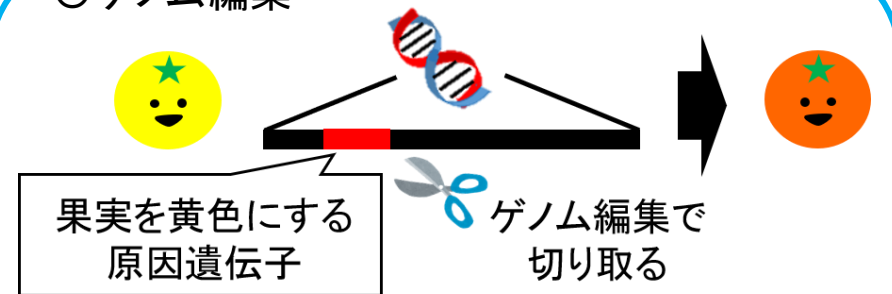


望んだ形質を獲得する確率が低く
育種期間が長期化する

○枝変わり（宮内伊予柑、南柑20号）



○ゲノム編集

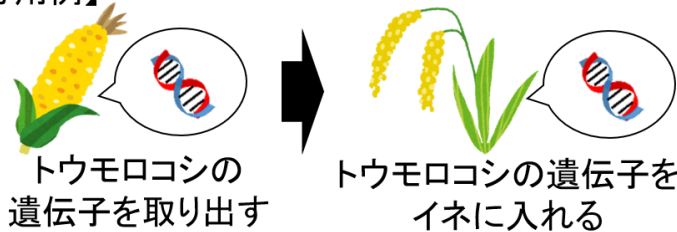


【ゲノム編集を利用した育種のメリット】

- ・偶然に頼ることなく狙った形質を獲得できる
→ 育種期間が大幅に短縮
- ・他の生物の**遺伝子を導入せず**に編集することが可能
→ 遺伝子組み換えに該当しない

○遺伝子組み換え

【応用例】



他の生物の**遺伝子を組み込む**ため
法律による規制がある